

GC-DR1

ドライブレコーダー

取扱説明書

保証書付き

お買い上げいただきありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。本機は日本国内専用モデルのため、外国で使用することはできません。

株式会社 JVCケンウッド

付属品	シガープラグコード(3.5m) x 1
	取付ブラケット(両面テープ) x 1
	microSDHCカード(16GB) x 1
	CD-ROM(PC用ビューワーソフト) x 1

取扱説明書について

本書では基本的な操作について説明しています。詳細な操作方法については取扱説明書<詳細版>(PDF版)を以下のホームページよりダウンロードしてご覧ください。  
http://www.32.jvckenwood.com/jvc/system/manual/Search/

本機のセットアップ

＜本機をご使用になる前に必ず実行してください。メモリーカードは挿入していない状態でセットアップを開始してください。＞

Step 1: 本機の取り付け / 記録

- フロントガラスの上部から20%の範囲以内に取り付けてください。
- 運転者の視界の妨げにならない位置に取り付けてください。
- ワイパーのふき取り範囲に入るように取り付けください。
- ルームミラーの操作の妨げにならない位置に取り付けてください。
- 車検証ラベル等に重ならないよう注意して取り付けください。
- 他の車載機器（安全支援システム用カメラや防眩ルームミラーなど）に影響を与えない位置に取り付けてください。詳しくは車両の取扱説明書を参照ください。
- 運転やエアバッグ動作の妨げにならないよう注意して取り付けください。
- きれいに録画するために、バックミラーの近くに本機を配置することをお勧めします。
- 車のフロントガラスが、反射コーティングで着色されている場合、電波を伝えにくくなり、GPS受信に影響を与える可能性があります。

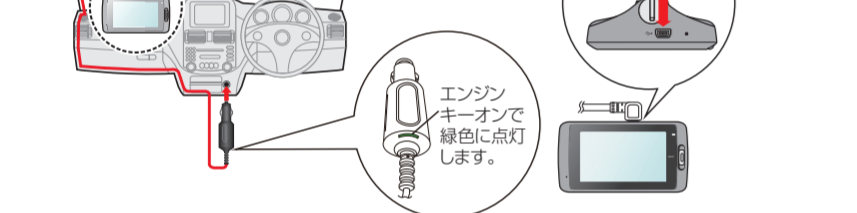
- 車が水平な場所に駐車していることを確認する
- 設置する場所を市販のクリーニングクロスなどで汚れや脂分を取り除く



以下の手順に従って、本機を車内にしっかりと取り付けます。  
(※)電源コード用フックは本機の電源コードをこのフックに引掛けます。

貼り付け位置を確認して貼り付けます。粘着テープの取付強度を強くするため、取付後24時間以上放置してから使用してください。

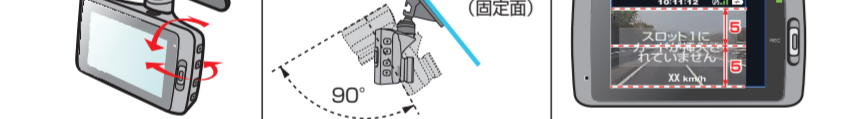
4 付属のシガープラグをシガーライターに接続して本機に電源コードを接続し、記録する



電源がオンになり充電が始まります。

5 取り付け角度を調整する

実際使用するとき、カメラの視野が水平な地面と平行であり、また地上と空の比率が約5対5であることを確認してください。



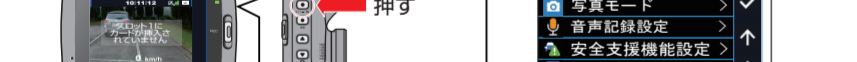
6 保護シートをはがす

保護シート

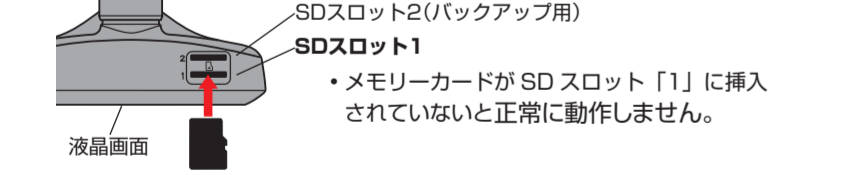
Step2: メモリーカードを挿入する

- メモリーカードの挿入、取り出しは、電源オフやメニュー表示中のとき(録画動作や再生動作をしていないとき)に行なってください。
- メモリーカードを取り出すときは、メモリーカードを押し少し飛び出したら、指でつまんで引き抜きます。

1 メニューボタンを押してメニューを表示する



2 メモリーカードをSDスロット「1」に挿入する



Step3: メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードを使用する前と2週間に一度くらいを目安にメモリーカードをフォーマットしてください。必要な録画ファイルはパソコンに保存することをお勧めします。本機には2つのSDスロットがあります。通常、使用する場合はSDスロット1にメモリーカードを挿入してください。

- SDXCカードは、購入時はexFAT形式でフォーマットされているため、カードを挿入するとマークが出る場合があります。以下の手順でフォーマットしてください。

1 電源オン中にメニューボタンを押す。メニューを表示して「フォーマット」を選ぶ



2 「SDスロット1」または「SDスロット2」を選ぶ



3 確認画面が表示されるので決定ボタンを押す



フォーマットが終わるとメニュー画面に戻ります。メニューボタンを押すとメニュー画面が消えて、録画がスタートします。

本機の取り付け、記録、操作を始める前に、裏面の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示を無視して誤った使い方をしたと生じる危害や損害の程度を区別して、説明しています。

**危険** 人が死または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

**警告** 人が死または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**注意** 人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみが発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容の種類を記号で区別して、説明しています。
- ⚠ 注意（しなればならない）の内容です。
- 🚫 禁止（してはいけない）の内容です。
- ❗ 実行（かならず行っていただく）の内容です。

免責事項について  
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

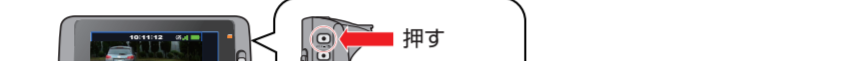
オプション機能のセットアップ

＜必要に応じてセットアップしてください。＞

駐車モードをオンにする

駐車モードのくわしい内容は、右側の「本機の録画機能について」をご覧ください。駐車モードを使用しない場合は、設定を「オフ」のままにしておいてください。

1 メニューボタンを押してメニューを表示する



2 「駐車モード」を選ぶ



3 「駐車モード設定」を選ぶ



4 「オン」を選ぶ



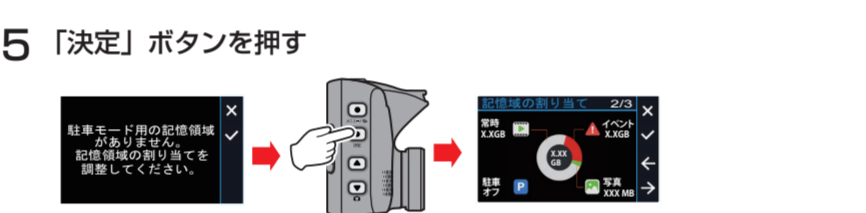
5 「決定」ボタンを押す



6 記憶領域の割り当てを設定する

初期値は2/3に設定されています。

- 駐車モードを使用する場合は必ず 1/3 または 3/3 に設定してください。
- 割り当てを変更するにはフォーマットが必要です。設定を変更する前に必要な録画ファイルをパソコンに保存することをお勧めします。



1/3 2/3 3/3

可変角度(垂直方向) フロントガラス(固定値) 90°

記憶領域の割り当て	メモリーカード容量	常時(録画)	イベント(記録)	駐車(録画)	写真
1/3	16GB	約1時間20分	約10分	約7分	約200枚
	32GB	約2時間50分	約20分	約15分	約400枚
	64GB	約5時間50分	約40分	約30分	約800枚
2/3	128GB	約11時間40分	約1時間	約1600枚	
	16GB	約1時間20分	約10分	0分	約200枚
	32GB	約2時間50分	約20分	0分	約400枚
3/3	64GB	約5時間50分	約40分	0分	約800枚
	128GB	約11時間40分	約1時間20分	0分	約1600枚
	16GB	約1時間20分	約10分	20ファイル	10ファイル
	32GB	約2時間50分			
	64GB	約5時間50分			
	128GB	約11時間40分			



• 記憶領域の割り当ての設定を変更したいときは、設定メニューの「システム設定」-「記憶領域の割り当て」から行います。割り当てを変更するとメモリーカード内の録画ファイルが消去されます。設定を変更する前に必要な録画ファイルをパソコンにバックアップすることをお勧めします。

- 記録時間及び写真撮影枚数は目安です。撮影するシーンによって短くなる場合があります。
- 録画は記憶領域がなくなる古い録画ファイルを消して録画し続けます。
- 写真は、「録画設定」の「解像度設定」の「1080p/1296p」で保存されます。

7 「SDカードをフォーマットします。全てのデータが消去されますが続けますか?」と表示され、「決定」ボタンを押す

フォーマットが開始され、駐車モードが「オン」に設定されます。

ご使用になる前にお読みください

■電源について  
本機の動作電源電圧はDC5Vです。必ず付属のシガープラグコードを取扱説明書にしたがって接続してください。ケーブルの改造（バッテリーに直接つなぐ）など絶対に行わないでください。

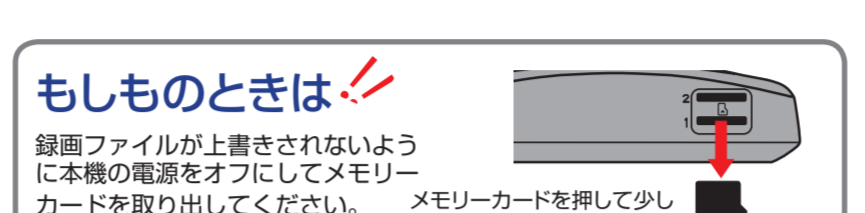
■SDスロットについて  
本機のSDスロットは「1」と「2」があります。SDスロット1:録画用のメモリーカードを挿入します。SDスロット2:ファイルをバックアップするときに使用します。(市販のメモリーカードの購入が必要になります。)

メモリーカードがSDスロット「1」に挿入されていないと正常に動作しません。

■メモリーカードのフォーマットについて  
本機はFAT32以外でフォーマットされたメモリーカードは使用できません。基本的には本機でフォーマットを行ってください。

■本機起動時のご注意  
本機は電源を入れて本機を起動したときにGセンサーの補正を行います。そのため正しく使用できる状態に調整、取り付けを行ったあとに本機の電源を入れてください。

もしものときは、録画ファイルが書き込まれないように本機の電源をオフにしてメモリーカードを取り出してください。



安全支援機能の設定

安全支援機能を使用するときは、「カメラ位置」、「ボンネット位置」の調整が必要で、調整後に使用する安全支援機能(車線逸脱警告、「前方衝突警告」、「発達進路警告」)の設定を「オン」にしてください。

カメラ位置、ボンネット位置の調整と機能をオンにする

1 見通しの良い、平らな安全な場所に車を停車させてください。

1 メニューボタンを押してメニューを表示する



2 「安全支援機能設定」を選ぶ

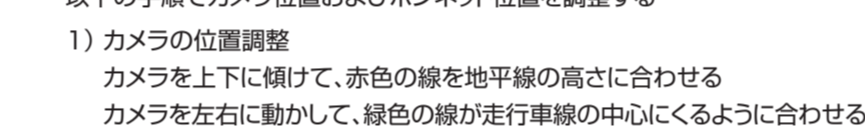


3 「カメラ位置調整」を選ぶ



以下の手順でカメラ位置およびボンネット位置を調整する

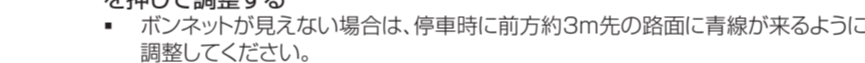
1) カメラの位置調整  
カメラを上下に傾けて、赤色の線を地平線の高さに合わせる  
カメラを左右に動かして、緑色の線が走行車線の中心に合うように合わせる  
調整後、決定ボタンを押して決定する



2) ボンネット位置調整  
画面に表示されている青線がボンネットの先端に来るように、「↑」「↓」キーを押して調整する  
• ボンネットが見えない場合は、停車時前方約3m先の路面に青線が来るように調整してください。  
調整後、決定ボタンを押して決定する



4 設定する安全支援機能を選ぶ



5 「オン」を選ぶ



他の機能を設定する場合は、手順4と5を繰り返します。

- 「車線逸脱警告」と「前方衝突警告」をオンに設定すると、エンジンキーをオンにしたときに地平線(赤線)、ボンネット線(青線)が数秒表示されます。

安全支援機能について

車線逸脱警告:  
約60km/h以上で走行中に車線を逸脱した際に、警告音を鳴らします。逆光、雨天、走行レーンの汚れなど、条件によっては正しく動作しません。

前方衝突警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

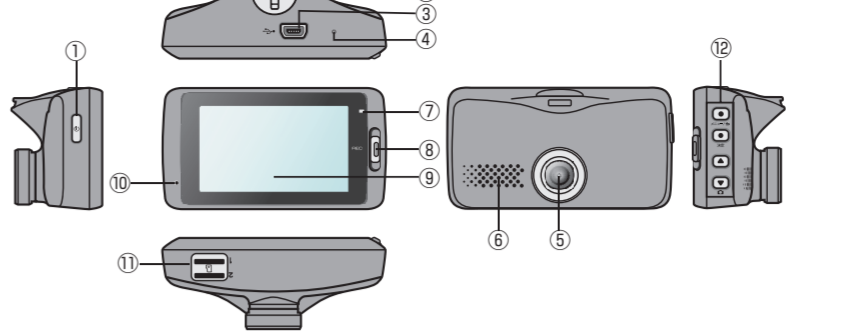
発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

発達進路警告:  
走行中に前方車両と約5km/h以上の速度差がある状態で接近した場合に警告音を鳴らします。なお、交差点などで先頭に停車した場合、前方を横切る人や車にも反応するため、警告音の音量を調整したいときは「システム設定」の「音量設定」で調整してください。

各部の名称とはたらき

本機の基本的な操作方法と設定方法について記載しています。



①電源ボタン 押すと電源オンになります。2秒以上押し続けると電源をオフします。電源オンのときに押すと、画面表示がオフになります。

②取付ブラケット挿入部

③ミニUSB端子(DC5V) 付属のシガープラグコードを接続します。USBケーブル(市販品)を接続してパソコンとも接続することができます。

④リセットボタン 本機をリセットします。

⑤カメラレンズ

⑥スピーカー

⑦インジケータ (緑色: ■ 橙色: ■ 赤色: ■)

インジケータ	エンジンキー	充電状態	録画状態
緑色と橙色が交互に点滅	オン	充電中	録画中
赤色点滅	オン/オフ	充電していない	録画中
緑色点灯	オン	充電中	
消灯	オン	充電していない	駐車モード待機中
赤色点灯	オフ	充電していない	

• メニュー表示中は、バッテリー駆動時は赤色点灯、シガープラグ接続時は消灯になります。

⑧イベント記録ボタン 手動でイベント記録を開始します。



⑨液晶画面

⑩マイク 録音中の音声を収録します。

本機の録画機能について

本機の録画機能は4つあります。電源がオンになると常時録画(機能1)を開始します。また、電源オン時に衝撃を検知するとイベント記録(機能2)を行います。本機の電源がオフのときは駐車モードで駐車録画(機能3)ができます。その他の機能として写真も撮影することができます。(機能4)

• ドアを閉めた時の振動を検出して、録画を開始する場合があります。

機能1: 常時録画 (連続録画) もしもに備えて走行中の映像を常に録画します

常時録画 本機の電源オンから電源オフまで常に録画しています。録画ファイルは古いファイルから自動で上書きします。



エンジンキーをオンにすると本機の電源が入り、数秒後に自動的に常時録画(連続録画)が始まります。常時録画ではファイルを分割して保存しています。録画領域がなくなると古いファイルから上書きして録画を続けます。

常時録画 経過時間 →

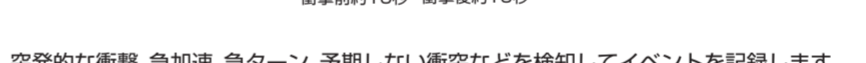
常時録画 ファイル → ファイル

• 常時録画ファイルは「Video」フォルダに保存されます。

• 設定メニューの「録画設定」-「記録時間設定」で1ファイルの録画時間を設定できます。お買い上げ時は3分に設定されています。

機能2: イベント記録 走行中に衝撃を検知したら録画します

イベント記録 本機が衝撃を検知すると常時録画からイベント(衝撃)記録に切り替わり、衝撃を検知した前後約20秒を保存します。

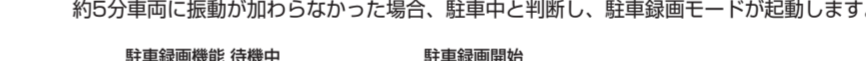


突発的な衝撃、急加速、急ターン、予期しない衝突などを検知してイベントを記録します。イベント記録を手動で始動させたい場合はイベント記録ボタンを押します。イベント記録が完了すると常時録画(連続録画)に戻ります。

• イベント記録ファイルは「Event」フォルダに保存されます。

機能3: 駐車録画 (駐車モード) 駐車中も衝撃および動体を検知したら録画します

駐車録画 駐車場などに車を停めて本機の電源がオフになってから約15分の間に衝撃および動体を検知すると録画を開始します。ファイルは古いファイルから自動で上書きします。「自動起動設定」(裏面)を「高」/「中」/「低」のいずれかに設定している場合は、約5分車両に振動が加わらなかった場合、駐車中と判断し、駐車録画モードが起動します。



• 駐車録画機能を使うときは「駐車モードをオンにする」を参照して設定してください。

駐車モードでは車両の衝撃およびレンズ範囲内の動体を監視します。監視中に車両への衝撃および動体を検知すると駐車録画を開始します。

- 駐車録画ファイルは「Parking」フォルダに保存されます。
- 駐車録画は衝撃・動体検知により最大60秒まで延長します。
- 衝撃や動体を検知してから数秒後に駐車録画が開始されます。
- 監視方法については設定メニューの「駐車モード」-「動作検出感度設定」と「衝撃検出感度設定」で感度を設定できます。
- 駐車時の常時録画を行うには、自動起動設定を「手動」にしてください。駐車モードに移行せずに上書きしながら「オフタイマー設定」まで連続して「Video」フォルダに記録します。
- 画面の表示時間を変更したいときは、設定メニューの「システム設定」-「LCD表示時間設定」で変更出来ます。(ただし、駐車モード以外でも、同じ設定時間で表示がオフになります。)

• 駐車録画機能を使うときは「駐車モードをオンにする」を参照して設定してください。

駐車モードでは車両の衝撃およびレンズ範囲内の動体を監視します。監視中に車両への衝撃および動体を検知すると駐車録画を開始します。

- 駐車録画ファイルは「Parking」フォルダに保存されます。
- 駐車録画は衝撃・動体検知により最大60秒まで延長します。
- 衝撃や動体を検知してから数秒後に駐車録画が開始されます。
- 監視方法については設定メニューの「駐車モード」-「動作検出感度設定」と「衝撃検出感度設定」で感度を設定できます。
- 駐車時の



